

土砂災害 ハザードマップ

連絡先
行方市役所
総務課 防災交通グループ
0299-72-0811（代表）



土砂災害の種類と特徴

土砂災害は、急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）、土石流、地すべりといった自然現象により、皆さんのや財産に影響がおよぶことをいい、地震や雨により発生しやすくなります。
また、近年は増加の傾向にあり、突然発生することから予測は非常に厳しく、被害が繰り返し起こり、被害の大きいことがあげられます。
土砂災害が発生するおそれのある危険箇所は、事前に調査され公表されています。

行方市で起こりうる土砂災害

行方市では、「急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）」の危険性があります。

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）とは・・・



「がけ崩れ」は、斜面が突然崩れ落ちる現象です。崩れた土砂は、斜面の高さの2～3倍も離れた距離まで届くことがあります。
「がけ崩れ」は、地震による揺れや、大雨・長雨により地面に水がしみこんで起きます。突然起き、スピードが速いので、危険を感じたらすばやく避難することが大切です。

前兆現象

こんな時は注意が必要！

- 小石がパラパラ落ちてくる
- 斜面に割れ目ができる
- 斜面から水が湧き出す

土砂災害（特別）警戒区域とは・・・

土砂災害特別警戒区域

急傾斜地の崩壊や土石流が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域です。一定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。

土砂災害警戒区域

急傾斜地の崩壊や土石流等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域です。危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

雨の強さと降り方の目安

1時間雨量	予報用語	降り方のイメージ	屋外の様子	災害発生状況
10～20mm	やや強い雨	ザーザー降る。	地面一面に水たまりができる。	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。
20～30mm	強い雨	どしゃ降り。		
30～50mm	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	道路が川のようになる。	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。
50～80mm	非常に激しい雨	滝のように降る。	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80mm～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。		雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

資料：気象庁（H14.1一部改正）

避難時の注意事項

非常に強い雨が広範囲におよぶと、警報連絡や避難支援が困難になる場合があります。
このような場合はお互いが声をかけあい、助けてもらって早めに避難を開始してください。

土砂災害から身を守るために、早めの自主避難を心がけましょう！

●避難経路の確認

災害時には通れなくなってしまう道もあるので、避難場所までの経路は、複数検討しましょう。



●非常持出品の準備

非常用備品は事前に準備し定期的に点検しておきましょう。また、避難時に持ち出すものは必要最小限にしましょう。



●情報の入手

雨が強くなってきたら、気象、雨量、河川水位などの情報に注意しましょう。



●避難時は市役所などの指示に従いましょう

避難の際はあわてず、市役所や消防団の指示に従って行動しましょう。
避難するときは、2人以上での行動を心がけましょう。



●避難時は助け合おう！

自力で避難することが困難な災害時要援護者の方は、早めの避難が必要です。お年寄りやこどもが安全に避難できるように協力しましょう。



●逃げ遅れたら 生命を守ることを第一に

避難が遅れ、危険が迫った場合には、生命を守ることを第一に考え、自宅の2階や近所の建物の上階などに急いで避難しましょう。



防災情報の伝達経路

防災情報は、各機関から下のような経路で伝達されます。市民の皆さんは、防災行政無線・テレビ・インターネットなどを利用して情報収集をして下さい。
また、避難先でもこれらの情報が受け取れるように備えましょう。

